

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(ユニット1)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0190400903, 株式会社 健康会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JgvsyoCd=0190400903-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR八軒駅から徒歩10分以内の立地、近所には公園やコンビニもあり入居者様と買い物に出かけたり近所を散歩するなどしています。食事に関しては外部業者に発注しているが、職員がその日のメニューに合わせてアレンジを加えて提供し、入居者様が食事を楽しんで頂けるよう工夫している。また家事などを通した生活リハビリなどをで自立した生活を送れるように務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西区八軒の市街地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。JR八軒駅から徒歩圏内にあり、近隣にコンビニがあり利便性のよい地区である。また、近隣に介護施設が少ないことから、他事業所と競合することなく、地域の方の入居の申し込みや働く職員も集まりやすい環境にある。ホーム内は、玄関を入ると白を基調とした空間で清潔感があり、中央に位置するリビングや食堂で入居者が寛げる場となっている。法人は、医療法人を母体としており、グループホームを始め、訪問介護、通所介護、訪問看護、医療系有料老人ホームなどを旭川市を中心に札幌、室蘭、苫小牧の道内及び首都圏にも展開するなど、積極的な高齢者介護の支援を行っている。当事業所は、母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで対応しており、これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (O/empty circle), and Achievement Details (1-4). Rows 56-62 are visible.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作成しており、開設時から職員と共有している。理念以外にも会社、事業としての重点的な取り組み内容を掲示し実施している。	会社の理念や事業所の理念を玄関や事務所に掲示している。また、毎月開催の職員会議の中で定期的に理念を復唱し確認しているが、職員一人ひとりが理解している実感ができていない。	職員の入替わりもあり、開設当初に作成した理念が実情と乖離している状況もあるため、新たな理念の立案も含め理念の共有に期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には参加して頂いていた。コロナ発生後は交流できていない。	コロナウイルス感染拡大予防のため、運営推進会議の参加者は事業所職員のみで開催している。町内会には所属しており、運営推進会議の議事録を町内会長へ郵送している。	感染拡大予防の影響で地域との付き合いは現状できていない状況だが、感染終息後も地域との繋がりが途絶えないような取り組みに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生もあり、あまり活かされていない。今後の課題と考えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ発生後は、運営推進会議は開催されているが参加者は内部職員に限定されてしまっている。取り組み状況を報告し、ご意見も頂き活かせるように取り組んでいる。	コロナウイルス感染拡大予防により、運営推進会議の議事録を参加予定者に書面にて送付状況報告している。送付後は、直接電話にて連絡しご意見を聞き取りサービス向上に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況の報告を毎月行っている。随時、事故報告を行っている。	月初めに市や地域包括支援センターの担当者などに施設の空床情報や入居された方の情報をFAXやメールなどで提供したり、コロナウイルス関連の情報を共有するよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。	安全対策委員会を設置して、3ヶ月に1回委員会を開催している。本社の方では、指針やマニュアルを整備しており、また、内部研修を年2回定期的に開催しスピーチロックに関することやセンサーマットの使用についての検討など身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通し理解を深め、日頃のケアから注意し防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が制度を理解できてはいないので、今後研修など通し理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や、日頃接する中で家族様から要望を頂いている。	ホーム便りは毎月発行しご家族へ報告している。また、利用者の日々の過ごし方を電話にて報告する際に、ご意見やご要望を聞き取りしたり、玄関やユニットの入り口に意見箱を設置するなどの工夫をして意見を反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、日頃の業務の中で職員の意見を聞いて、業務に活かせる意見は取り入れている。	月1回の会議の場で日頃の業務について、職員から聞き取るようにしたり、玄関に意見箱を設置して職員の提案を聞く機会を設けている。また、個人面談は年2回定期的に実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションの向上に繋がるようにと改善に努めている、職員の定着率は良い方だと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会を設け、参加してもらいスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	札幌市や西区のグループホーム連絡会に参加しているが、コロナ発生のため活動は行われていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ発生後も、可能な限り入居前にご本人と面談を行いご要望等確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ発生後も、可能な限り入居前にご家族様と面談や電話にて、ご要望等確認し入居後にできること、出来ないことなどを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談、アセスメントを通して、必要としている支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に行うことで、関係構築に務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時や電話などを通して情報共有を行い、関係構築に務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人へのお手紙をお預かりし投函したり、コロナ発生前は、面会の要望がある際はご本人の了承を得た上で面会して頂いていた。現在は面会は禁止されている。	施設近隣に友人がいる方が多く、以前は面会に来られていたが、現在はコロナウイルス感染予防のため面会ができない状況にある。入居者によっては、手紙を通して馴染みの人との関係を継続するなど、関係性が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員、入居者様が一緒に出来る事を行うことで協力しあう関係を築けるよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご逝去されたとの連絡があり、不要な福祉用具の寄付を受けたこともあった。退居された後も家族様から現在の様子をお伝えいただいた事もあった。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中から、ご本人の意向を把握するよう努めている。	日々の生活の中で、改めて本人の意向を確認し、その意向に沿ったケアができるよう努めている。また、本人の意向の確認が難しい方は家族に確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、ご本人、家族様からの聞き取り、サービス利用されていた場合は情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりの中から、ご本人の現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から要望を把握し、職員のモニタリングを踏まえた上で評価を行い、現状に即した計画作成に繋げている。	3ヶ月毎に計画書を見直し、現状に即した介護計画を立案している。サービス担当者会議にて計画に沿ったケアができていないか確認し、また、毎月モニタリングとアセスメントを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活シートの記入、特変時の報告、毎月のケア会議での意見交換等を通し計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の希望に合わせ、急な外出、入浴時間の変更など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生のため活用できていない。今後の課題と考える。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に合わせ、かかりつけ医選定して頂いている。家族対応の受診の際などは情報共有を行っている。家族対応困難な場合は受診の支援も行っている。	提携しているかかりつけ医は、家族同行で受診しており、往診も月2回となっている。家族同行が難しい場合は、職員が対応し受診後の状況を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問あり、医療連携を行っている。日頃から情報共有を行い、助言や指導を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時の対応や、長期入院時は入院先を訪問し、ご本人との面会や入院先との情報共有を行い状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、意向を把握しリビングウィルを取り交わしている。	入居契約時に入居家族へ説明し同意を得ている。重度化した時は、再度主治医を中心に打ち合わせして、本人や家族の意向に基づいて対応するよう取り組んでいる。	施設での看取りの実例がないため、対応する職員の不安がある状況。看取りに関する研修への参加やマニュアルに基づいた対応ができる体制の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアル作成しファイルしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施、災害対策マニュアルを準備している。非常用品は備蓄している。	火災や地震・水害に関する避難訓練は、夜間想定も含め年2回以上定期的実施している。また、BCPの整備や備蓄・備品を整備して、災害対策を行っている。	緊急連絡網に地域の方や消防団の協力が得られるような地域との協力体制を構築できるよう期待したい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	節度を持った対応、声掛けを行うよう注意している。	入居者家族へは、入居契約時に個人情報保護に関する説明し同意を得ている。また、普段のケアに関しては、正しい言葉使いができるよう職員間で声かけし注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から、意向を読み取るように努めている。自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	起床、就寝、入浴時間などご本人の希望に沿って対応している。日中の過ごし方も何かを強制するような事は行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った形で支援している。訪問理美容の利用も本人確認の上行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、簡単な調理、配膳など出来る範囲で協力して頂いている。コロナ発生後は調理に関わる部分は控えて頂いている。	日によって「お楽しみメニュー」を職員で考えたり、入居者からの聞き取りで好みに応じた食事を提供するよう努めている。今は、下膳のみ手伝ってもらい、可能な範囲で入居者一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などを把握し不足時は促すなど行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行って頂けるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握、トイレの利用継続を行っている。	シートから排泄パターンを把握して、職員間で共有し、一人ひとりに合わせて声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方は、医師と相談の上で下剤使用しての排便コントロールを行っている。乳製品の摂取なども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日の設定は行っているが、ご本人の希望に合わせて柔軟に対応している。	曜日の概ね決まっているが、週2回の入浴ができています。入浴拒否がある方への対応は、時間を置いたり、職員を変えたりして対応している。本人の状況や希望に合わせて、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は館内の照明を調整するなど安眠しやすい環境づくりを行っている。居室以外のフロアソファなどでも休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬情を管理し、全職員が把握可能な状態になっている。申し送り薬の変更など伝え情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族様からの情報を参考にし、楽しんで生活して頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添い、近所への買い物や散歩などを行っている。家族様の協力で外泊や外出されることも多く、外での活動が増えるように努めていた。コロナ発生後は控えている。	コロナウイルス感染拡大予防のため、施設の周囲を散歩したり、定期受診の際に外出する程度となっている。	感染拡大予防のため、外出ができない状況ではあるが、終息後には家族と一緒に外出行事を企画するなど定期的な外出支援を今後に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は職員が管理している。買い物に行かれる際は職員が付き添っている。コロナ発生後は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙を出したいとの希望ある際は、職員が投函するなど対応している。届いた郵便物はご本人にお渡ししている。電話連絡の希望あれば都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感がある空間づくりに努めている。館内の香りや明るさ室温など注意している。季節に合わせた創作物などを壁に張り出している。	共用空間は、白を基調とした空間で清潔感があり、採光や風通しもよく、定期的に換気もしており、室温や湿度など管理している。また、季節ごとの飾り物や行事の写真などを掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを2つ用意し、自由に利用して頂いている。食堂席も活用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの物以外は、ご本人やご家族様にお任せし自由に持ち込んで頂いている。写真や身の回りの物等、なじみの物を使って頂いている。	居室は、収納とベットが設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない方には目印となるものを居室前に用意し、迷わない工夫をしている。		